



令和5年8月14日

各位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス  
 代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢  
 (コード2388 東証グロース市場)  
 問合せ先 開示担当 小竹 康博  
 (TEL 03-6225-2161)

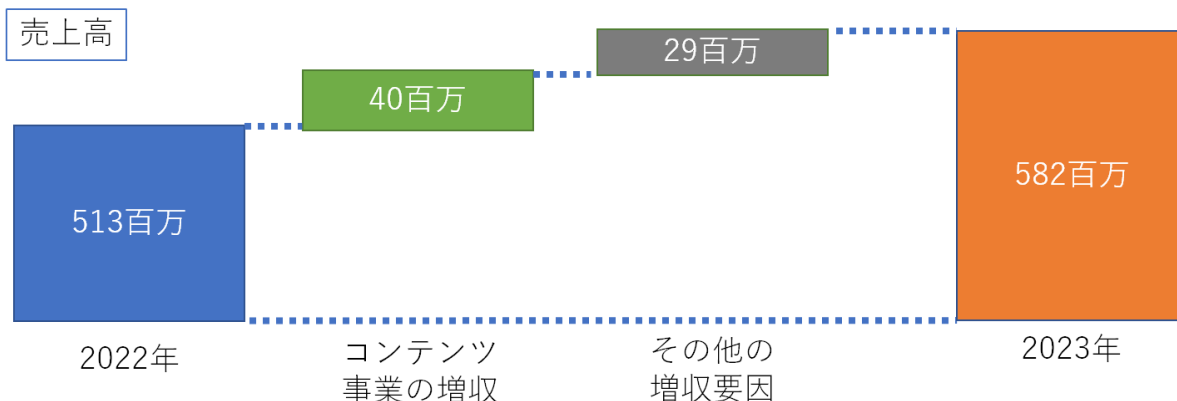
### 当社第3四半期連結経営成績の内容に関するご説明 ～リゾート事業の好調とコンテンツ事業の安定した業況を受けて黒字転換～

当社は2023年8月14日、第3四半期の決算短信を発表しました。2022年第3四半期との比較で主な増減とその要因について、概略をご説明させていただきます。円高による為替差損が大きく出たものの、コンテンツ事業は事業が安定的に推移し、リゾート事業は好調に推移して利益が大幅に増加し、デジタルファイナンスも大幅に損失を減少させました。これらにより、**純利益が黒字転換いたしました。**

当社は事業セグメントとしてのコンテンツ事業を祖業とし、リゾート事業とデジタルファイナンス事業を二つの重要な持分法適用関連会社事業として行う企業集団です。

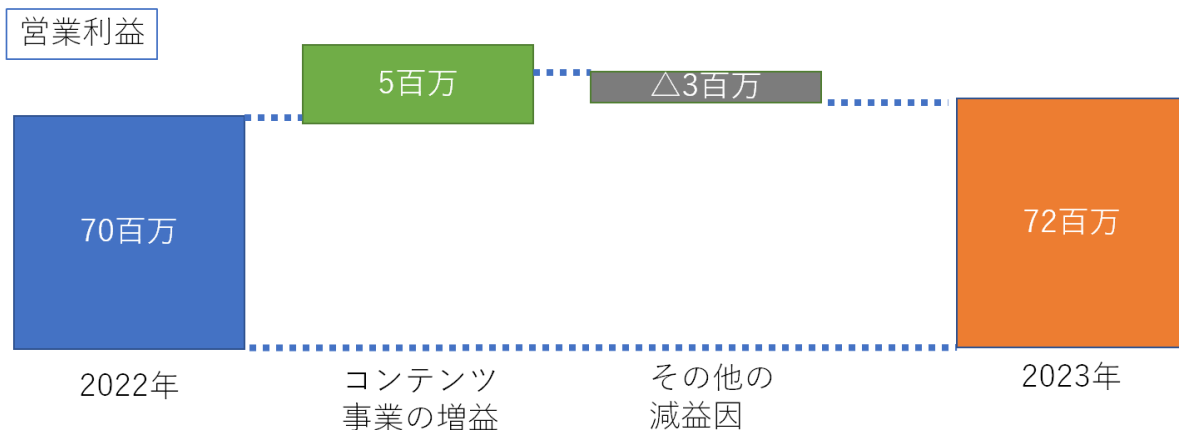
#### ① (売上高)： 5億82百万円 (+69百万円 +13.5%)

売上高の増加は主に**コンテンツ事業の売上増**によるものとなります。海外事業を含む新規事業開発の取り組みや、ゲームや各種コンテンツの企画開発が好調に推移し、ロイヤリティ収入なども順調でありました。



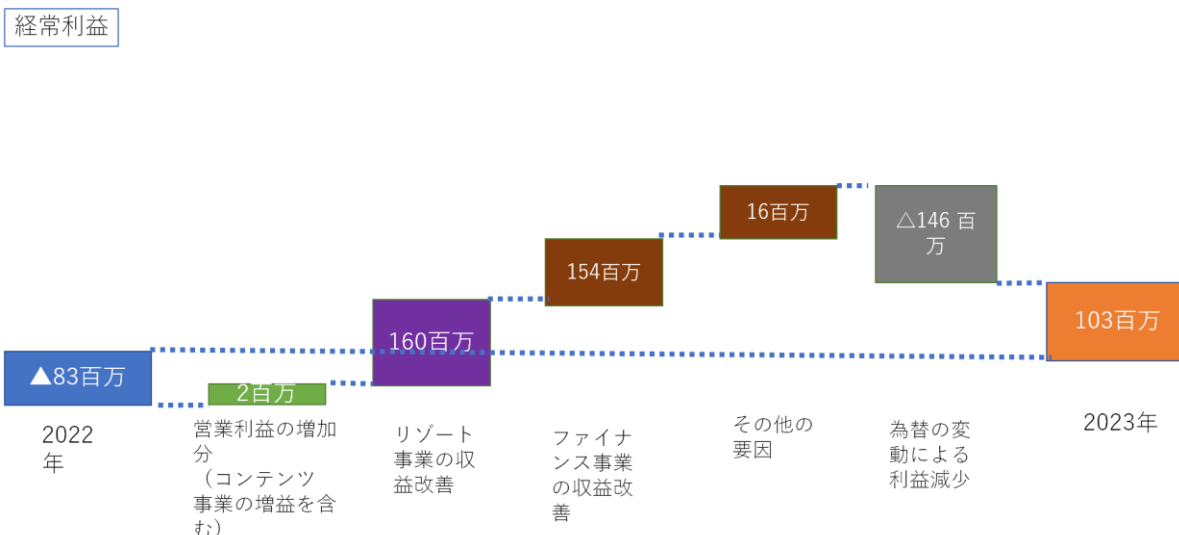
② (営業利益) : 72 百万円 (+2 百万円 +3.2%)

主に**コンテンツ事業の利益拡大** (+5 百万円) によるものです。事業経費の配分の管理が向上し収益性が改善していることに加えロイヤリティ収入なども好調に推移しました。



③ (経常利益) : 103 百万円 (黒字転換)

リゾート事業はコロナ禍で1年半にわたって閉鎖しておりましたが、営業再開後は極めて好調に推移し、今期はゼボラリゾートを運営する**リゾート事業が好調に収益を計上**して投資利益は1億35百万円となりました。デジタルファイナンスは投資損失66百万円であるものの大きく改善して前期より154百万円損失が減少しました。それに、上記営業利益伸長を加えて経常利益が改善しました。その結果、昨年より大きく改善し、黒字転換したものです。一方、昨年よりも円高になったため、為替の変動による差損が発生し前年比では大きく利益を下押ししましたが、それらを補って増益となっております。



④ (親会社株主に帰属する四半期純利益) : 75 百万円 (黒字転換)

上記の要因をもとに四半期純利益においても黒字転換を果たしております。

以上、ご確認いただけますようお願いいたします。

以上